

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2874003326		
法人名	医療法人 恵風会		
事業所名	ケアホーム みどり		
所在地	兵庫県姫路市今宿5丁目3番8号 (電話) 079-293-6650		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年 9月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤13人, 非常勤 0人, 常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (有)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	11	要介護 2	4		
要介護 3	3	要介護 4	0		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 83.4 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいふう心療クリニック、高岡病院、段歯科医院
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

姫路城や名古山霊園が東側にのぞめる医療法人に併設されたグループホームである。法人は病院、診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所等、多くの施設が併設され、それぞれ連携を図られている。ホームはその利点を活用しケアの充実、地域への活動、事業所内研修、委員会等積極的に行っている。職員体制は全員常勤で看護職員も含まれ、入居者の健康管理や緊急時の医療連携が図られている。ケア面では、家族との交流を大切にされ、一緒に相談しながら入居者が安心して生活できるケアを常に検討されていることが印象的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて前年は家族との関わりに付いて、今年は地域との交流を目標にして積極的に地域に出て行き、神社の掃除を実践することで地域に人からの声かけが増え、地域の中での生活が動き始めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>ケアの実践や取組みを行う中で、大切な振り返りの機会と捉え、職員全体で自己評価を取り組んでいる。評価を行う中で再度基本に戻り、確認しながら業務を振り返ることが出来、新たな気づきを得ることが出来ている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度開催される運営推進会議では、ケアの取組みの状況等の報告や家族との意見交換が行われ、サービスの質の検討が行われている。日程上地域からの参加者が少ないことが残念であるが、会議録は事業所入り口に置き、誰でも閲覧できるようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)</p> <p>家族の意見や思いを伺うために、ケアプラン作成時等には一緒に話し合う場を持つようにし、また、家族会や茶話会では和やかな雰囲気意見交換が出来ている。また、苦情対応として意見箱が設置されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>法人全体での行事であるバザーには日ごろの作品を出展したり、運動会や秋祭りなど地域の行事には積極的に参加している。日常的に散歩はしているが、月に一度地域の清掃活動を実践し、地域の人達との交流が深まっている。</p>

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より「入居者の方々に安らぎのある生活を、それが私たちの願いです。」を理念に、入居者が安心して暮らせる地域、家庭と同じような雰囲気となることを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に唱和し、理念を意識しケアにあたっている。また、理念から視点を広げた接遇面において毎月の月間目標を決め、日々の実践につながるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度の目標の一つに地域とのつながりをあげ、法人を通しての行事に加え、ホームとして出来ることからの取組みで、毎朝外でラジオ体操を行い近隣の方との交流を図っている。また、入居者と職員とで話し合い、散歩でよく行く神社の清掃活動を月に一度実施されている。これらの取組みにより近所の方と顔見知りとなり、声をかけあったり、地域の方々との交流が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員会議で話し合い、昨年は家庭との連携、今年は地域との交流を重点に置き取り組まれている。また、引き続き玄関の開錠について検討、実施されている。今回の自己評価は各ユニットごとに全職員で取組み、気づきを得ることでスタッフの意識を高められている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に一度入居者、家族、職員、地域包括支援センターの職員をメンバーに実施されている。会議では状況報告、行事報告、第三者評価の報告を行い、意見交換の場としている。		メンバーに地域住民の代表、市職員、有識者、第三者評価評価員等をメンバーに加え継続的な参加を求め建設的な意見交換の場となることに期待したい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	昨年度よりグループホーム連絡会に参加され、介護保険課の職員と意見、情報交換をし、サービスの向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に一度職員の手書きによる状況報告を添え、金銭管理やホーム内の様子や行事案内を送られている。また、面会時には詳しく近況や様子を伝え、家族の意向を聞いたり相談できるよう配慮している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	昨年の取組み目標の一つにあげ、年1回の家族会に加え、多くの家族が参加しやすいように年に3回程度の茶話会を開いている。一緒におやつを作り、ホーム内での様子や表情を見てもらい話しやすい状況を作っている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人内の異動はあるが、新たに配属された時、グループホームについての理解を深め、慣れるまで職員がフォローし入居者への影響の軽減に努めている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の評価結果を踏まえた取組みとして研修の充実をあげ、職員の希望を聞き勤務調整等配慮している。法人内の勉強会、委員会に積極的に参加し、外部研修にも計画的に出席できるよう配慮している。実践者研修にも参加し、他のグループホームへ実習に行くことで取組みについて学習する機会とし職員の質の向上を目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年より始まったグループホーム連絡会に参加し、勉強会や意見交換、情報交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり利用するのではなく、段階を追って納得してから入居できるよう配慮されている。まず家族に来所してもらい状況や意向を聞き、次は本人にも来てもらい雰囲気を体験してもらい双方が納得してから入居されている。家族の協力も得ながら安心して暮らせるよう個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごし支え合うためには、まずその人を知ることであるため、家族に協力のもと生活歴や背景の把握に努めている。入居者の感動した場面や楽しい出来事を忘れてしまう寂しさや悲しみを軽減するため、必要な方には職員と一緒に日記をつけてもらい、思い出を共有できるよう取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	各ユニットの状況が把握できるよう1週間を区切りに経過記録を記載し、職員の空いた時間を利用しミニカンファレンスを持ち、一人ひとりについて検討している。入居者それぞれの思いや意向を多方面から把握するよう努めている。		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居後はまず、情報把握の期間とし1ヶ月の計画を立て、一つひとつのことに根拠を見つけ、家族も交えた担当者会議を持ち、3カ月の計画をたて、ニーズ・目標を明確化し、再度評価し、担当者会議を持ち、6ヶ月の計画へと段階に応じた計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	職員それぞれが2~3人を受け持ち、計画であがった項目をチェック表に落とし、日々の記録やミーティングで状況を把握し、期間に応じ見直している。また、状況変化のある時はその時点で見直している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	併設の病院、心療クリニック、介護老人保健施設、通所リハビリテーション事業所を活用し、受診、行事参加、リハビリ等必要に応じた支援が出来ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>まずは本人・家族の希望の病院受診の支援を家族と連携して行い、併設の病院、歯科はいつでも受診できる体制にある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に医療連携加算の説明をすると共に、看取りについても説明し同意を得ている。ホームでまだ事例はないが指針について様式を整備し、職員間で勉強会を行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>どの入居者に対しても人生の先輩であるとの認識を基本とし、介助時、その人に負担とならないよう配慮している。また、毎月接遇面での目標を決め職員間で気がつくよう意識し合っている。記録物は詰所内で適切に保管しており、個人情報の保護を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>何がしたいのか把握に努め、その人のレベルに合わせ得意なところが発揮できるよう支援している。また、それぞれのペースを大切にし、無理強いのないよう気をつけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、週に4回の昼食を手作りの日とし、会話の中から献立を決め、食材の買い物に行っている。同じ人に偏らないよう配慮し、できるだけ多くの方に役割を持ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく本人の希望に添えるよう勤務を工夫し、夜間の入浴もされており、2日に一度は入浴できるよう支援している。拒否が続く時は、声かけを工夫したり、楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴の情報を詳しく知り、その人に合った役割を持ってもらい、意欲的に過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、戸外でラジオ体操を行い、買物や散歩の機会をなるべく多く作れるよう職員の少しの用事でも一緒に出る機会としている。距離が長いと歩けない方は車イスを持参し、多くの入居者が出れるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は日中も施錠していたが、まずは短時間でも開錠できる時間を作り、少しずつ増やしている。外出時間を増やしその時は鍵をかけないようにし、職員も見守り注意をしている。		今後も職員間の意識を統一し、鍵をかけることの弊害を話し合い、継続して開錠時間の延長を図って欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>法人と協力しマニュアル、緊急時連絡体制を整備し、月に一度入居者も一緒に夜間想定、日勤の避難訓練を実施している。また、年に1回は消防訓練も行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考慮し献立を考え、摂取状況を記録に残し、1日1,500mlの水分摂取を目安に職員間で情報交換し、尿量・排泄回数 of 把握にも努めている。食事拒否のある方には家族に協力を依頼し、食事前に電話を入れてもらい安心して食べられるような支援がなされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関前に花や野菜を育て、広くゆったりとした共用空間には季節の飾りを置き、和やかに会話を楽しめるスペースを設けている。コーナー部分には仕切りを利用し、気の合った人同士で過ごせる場所も確保している。明るく落ち着いた雰囲気でも空調管理も出来ている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはそれぞれ使い慣れた家具や馴染みの物を置き、安心して暮らせるような配慮がなされている。</p>		

 は、重点項目。